

## 平成25年度 第1回健康づくり支援部会 議事録

日 時：平成25年11月29日（金）

午後8時00分～8時30分

場 所：帯広市役所 10階 第4会議室

### ● 会議次第

#### 1. 開会

#### 2. 会議

(1) 平成24年度第6回帯広市健康づくり支援部会議事録（案）の確認

(2) 平成25年度健康推進課関係決算について

(3) 新型インフルエンザ等行動計画見直しについて

(4) その他

#### 3. 閉会

- 出席委員：井出渉部会長、吉村典子委員、佐土根由委員、高橋きみ子専門委員、有岡秀専門委員、高橋セツ子専門委員

### ● 議事録

#### ○ 事務局

こんばんは。

それでは、ただいまから、平成25年度第1回健康づくり支援部会を開催させていただきます。本日の委員の出席は、健康づくり支援部会、委員8名中6名のご出席をいただいております。出席人数が委員の過半数を超えていますことから、本日の部会は成立しております。

それでは、これよりの議事進行につきましては、井出部会長にお願いいたします。

#### ○ 部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

まず、前回会議の議事録の確認について、議題といたします。

この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

#### ○ 委員

[質疑応答なし]

○ 部会長

特になければ、会議録は了承されたものといたします。

次に、平成 25 年度健康推進課関係決算について議題といたします。事務局、説明願います。

○ 事務局

お手元に配布させていただいています資料 1、資料 2 についてご説明させていただきます。

まず、資料 1 であります。平成 24 年度 健康推進課決算に関わる資料でございます。総事業費は 8 億 5 千 444 万 382 円でした。その内訳としまして資料左側の保健衛生総務費の総額 1 億 2 千 809 万 123 円です。中身につきましては、けんこう帯広 21 策定の費用、健康まつり負担金、重度心身障害者歯科治療事業補助金、難病連十勝支部事業費補助金等となっております。

食・運動改善推進費は、食生活改善推進員と健康づくり推進員の養成・育成事業費となっております。

公衆浴場対策費は、市内の公衆浴場活性化のための事業費でございます。

訪問看護促進費は、こちらは北海道在宅医療ケア事業団の会費となっております。

大正と川西にゲートボールができる施設がございます。健康増進センターとなっておりますが、その 2 箇所の運営費でございます。

また、高等看護学院につきましては十勝の 19 市町村で運営しておりますが、1 年間の分担金となっております。医師会看護師等養成機関に対します補助金についても計上させていただいております。

帯広厚生病院救命救急センターの運営費であります。これも管内 19 市町村での運営を行っているところでございます。

保健福祉センター費であります。これは保健福祉センターの管理費であります。

次に、資料右側予防費ですが、総額で 4 億 6 千 61 万 7017 円であります。内訳としまして、がん検診、健康診査など各種がん検診ですとか、国の事業であります無料クーポン券事業、子宮頸がん予防ワクチンの接種費用の助成、肝炎ウイルス検診などの費用でございます。

また、予防接種費につきましては、現在行われております定期接種と任意の予防接種におけます国の補助事業などの費用を含んだものでございます。

感染症予防費につきましては、65 歳以上の高齢者及び中学 3 年生、高校 3 年生に対する季節性インフルエンザ予防接種などが含まれています。

結核予防については、BCG 予防接種費、結核検診などの内容でございます。

健康相談費、これには精神科医師と心理相談員への報酬、報償費などが含まれます。

健康教育費につきましては、私どもが実施しております各種講座の費用となります他、訪問保健指導費につきましても含まれております。また、自殺対策費としてこちらの体温計などの事業を行っております。

最後に、夜間急病診療費であります、夜間急病センターの管理運営費のほか、救急医療対策費としまして二次救急医療、休日歯科診療業務、急病テレホンセンターなどの運営費が含まれております。

また、26年4月に柏林台西町の方に夜間急病センターが移転いたしますが、24年度につきましては新しい建物の基本設計費を計上させていただいております。

これが24年度の決算の概要でございます。

資料2をご覧ください。

まず、「1. 保健福祉センターの利用状況」でございます。

これにつきましては、平成18年から共用しておりますが年間 約5万7千人程度で推移しています。2つ目につきましては、各相談の利用状況でございます。24年が11,379人となっております。23年、24年につきましては一般来客者の中でも特に相談関係の人数に絞っています。

次に、「2. 感染症などの予防」でございます。

平成23年度から平成24年度に生ポリオから不活化ポリオに変わったり、3種混合から4種混合の導入ということで、かなり予防接種の方法が変わってきたところで、接種の人数はこのようになっております。

続いて次のページに移らせていただきます。

季節性インフルエンザの予防接種の状況ですが、22年度につきましては、新型インフルエンザの関係で助成により予防接種を受けた方が非常に多くなっています。

23年度、24年度につきましては、従来どおりの65歳以上の高齢者に対してと、中学3年生、高校3年生への助成となっております。

中ほどであります、「3. 生活習慣病の予防」でございます。

健康づくり教育の実施状況ということで、老人クラブですとか、婦人会、町内会へ出向いて参りまして健康教育を行ってきているところです。24年度につきましては4,476人。23年は下がっておりますけれども24年は4,400人代でございます。

それから健康づくり講座の中身でございますが、23年から事業を絞ってきた関係もありまして事業の本数は少なくなっています。

次、3ページになります。

健康相談につきましては電話ですとか、面談ですとか、いろいろな形でやっております。人数は600人から700人という推移となっております。

(6) 検診の実施状況であります、大腸がん検診と肝炎検査につきましては、23年から国の方で無料クーポン券を交付しておりまして、受診者数が増加しています。24年におきましては若干減少していますが22年と比べると増加で推移しています。

乳がん検診と骨粗しょう症検診におきましては減少傾向にあります。それ以外の胃がん、肺がんなどについては、横ばい状態となっております。

最後の4ページになります。「4. 自殺対策」でございます。

平成21年、全国で自殺者が3万人を超えていたということから、国のほうも対策を図るということで地域自殺対策緊急強化基金を国の方で造成しまして、その基金を活用しまして各自治体がいろいろな事業を実施しております。帯広市におきましても、平成23年から事業を実施しております。

特に、22年からにつきましては、講習会を開催するなり、自殺対策にかかる関係職種や関係機関において、相談者を適切な相談窓口につなげられるように情報の共有を図るための多分野の研修会を実施しています。また、24年からはこころの体温計ということで、インターネットを通じてアクセスすることによって自分の身体や心の状況を判断できるソフトでありまして、それと合わせて相談窓口が示されているということでございます。これにつきましては、波はありますが、毎月7千から8千件のアクセスがあります。

最後に、「5. 救急医療」の部分であります。

これにつきましては、夜間急病センター、在宅当番医制の患者さんの人数、それと二次救急で6病院の対応状況などについて、このような中身になっているところがございます。決算と、主な事業内容についての説明については以上でございます。

○ 部会長

ただいまの事務局の説明について、何かご意見ご質問はございますか。

○ 委員

去年、おとしあたりから、小学生までを対象とした公衆浴場の無料サービスというか、その結果に対しての考察などありましたらお聞きしたいのですが。

○事務局

具体的な事業は平成24年度から「ふれあい銭湯事業」ということで、市内に浴場が15箇所あるのですが、その一部が廃業し現在13の浴場が営業しております。なかなか集客数が見込めないということで土曜日については、保護者同伴であれば小学生、そして中学生を無料にするということで補助事業という形で実施しています。人数は浴場によって差はありますが、多いところでは1日に100人近い小中学生が来場している、少ないところは10人前後、他は50人前後と浴場によってばらつきはあるのですが、そのような形で小中学生を無料にして実施しています。全体で人数が増えたかどうかということに関しましては浴場の話しを聞く限りにおいては客数も増えてきているということです。集客の部分では効果をあげているとお

ります。

#### ○委員

集客は営業の方ですよね。行政としては、やはり親子の目的とか衛生面とか生活環境とか、目的があってやっていると思うのですが、私も温泉銭湯を利用させていただくことが多いのですが、非常に行儀が悪いんです。親子の絆やしつけが習慣化されて公衆的なマナーが身についていくならいが、銭湯によって曜日が違っているとところもあって「今日は子どもただの日だから子どもたちが多くて行儀悪いよ」と話している人もいて、そうであれば目的が達成されているのか、他の方法はないのか、親子同伴でなければいけないと張り紙もされているのですが友達同士で来ていたり、事業としてはいいのですが状態としていいのかと思います。そうでなければもっと健康増進に例えばプール、めったに親子で行けないかもしれないけど、そういう方向に目を向けるとか。集客が店の方の利益になっているのでしょうけれど、提供する側としてはどうなのかな、と疑問に思っておりましたので発言させていただきました。

#### ○事務局

今、一つはモラルの話がありました、そして効果といえば集客、人数が増えてくると、もともとこの事業をスタートさせてきたのは15あったお風呂屋さんが13に減ってきていると、それで市内にある程度の距離に浴場があることでお風呂のない方がわざわざ車で出かけなくても歩いていけるような公衆衛生の環境をつくるということが行政としての役割でありますので、なるべく小さいところも営業が続けられるような方策を取りたく、そのために、集客の一つの方法として親子ふれあいという形で事業を進めてきました。今年が2年目となりますがモラルの話はあります。子どもさんと一緒の場合、場所取りをしたり、サウナで長くたむろしたり、大人自身も風呂に入るときのモラルというのがなかなか無くなってきているというのが現状かもしれませんで、ふれあい銭湯の日だけではなく、大人も含めたモラルづくりというのが、これからの課題になると思っています。浴場組合、団体の方とも意見交換する機会もありますのでそういう面での話もしながら、どういう方策があるのか話しをしていきたいと思っております。

#### ○委員

ありがとうございました。

#### ○部会長

他に何か、ご意見、ご質問はないでしょうか？

○委員

1 ページの各種相談利用の状況の中でぐんとへっているのですが、減っている方たちは他に相談するところがあるのか、それとも相談自体が減ってきているのかその状況はいかがでしょうか？

○事務局

1 ページで特に減っているのが、障害者生活支援センターの部分であります。保健福祉センターが開設されたときには、市役所本庁舎の障害福祉課の職員が常駐しまして本庁とこちらの保健福祉センターでも相談業務を受けるということで進めてきております。本庁の障害関係の業務が多忙になりまして、職員が本庁のほうに場所を移した関係もありまして、24 年につきましては人数が少なくなったという要素があります。それについても今後どのようにしていくことが利用者にとって利便性が高いのかと内部で協議しておりますので、新年度について、また新たな体制が取れるのかどうか検討しているということです。

○部会長

よろしいでしょうか？

○委員

子どもさんに対しては地域子育て支援センターなどに行って相談しているのでしょうか？

○事務局

お子さんについては子育て支援センターなどが身近な場所に設置されていますのでそちらでも相談はうけております。

○委員

はい、ありがとうございます。

○部会長

他に何かご意見ご質問はないでしょうか。

○委員

子宮頸がんワクチンのことですけれども、前はすごく推奨されていましたがけれども、いろんなことがテレビなどでも取り上げられていて、どのくらいの人が接種し

たのか、人数はどうなのでしょう。最初に決めた時と年数がたってから受ける率が下がってきているのか、上がっているのか。

#### ○事務局

子宮頸がんワクチンですが、国の景気対策の事業の関係でスタートしております。22年23年それぞれ対象が中学1年から高校2年までということで、接種をしております。接種率は、学年により異なりますが高校2年生であれば大体77%接種をしていると、中学1年生については約6割が接種をしています。お話にありました副反応の関係ですが、子宮頸がんワクチンは3回打つのですが筋肉注射なので打った時に疼痛があるということで、その疼痛によるものですか、めまい、失神など、副反応がワクチンとどういう関係があるのか、まだ明らかになっていないということで、今年の6月に厚生労働省の方から積極的に勧奨を進めないようにという文書がおりてきました。それまでは補助事業として、どんどん推奨し、25年4月からは定期接種化、努力義務の接種になりました。対象になる年齢の方は6月までは接種される方は普通に接種しておりました。1回目実施した方は2回目、3回目と実施しておりますが6月以降は新たに1回目を打つという方は減っている状況にあります。率にすると25年の決算にはかなり低い数字になろうかと思えます。1割から2割の間くらい。6月以降積極的に勧奨しないという方針になってから、マスコミもいろいろな形で報道していますので、接種率は落ちています。ただ、国のほうからも接種する機会は市町村で持つように、最終的には接種される方が子宮頸がんワクチンの効果と副反応のリスクを選択して接種してくださいという状況です。年度内来年3月までに副反応の関係がワクチンとどういう関係があるのか明らかになれば、また元通りに戻るのかもしれませんが、まだ情報が流れてきていませんし、明らかになっていないという状況です。われわれもその推移を注目しているという状況です。

#### ○委員

例えば、その副反応が目に見えるものであればある程度評価できますけれども、あるところでは、接種したことが原因で不妊になっていくかもしれないと言っている人がいます。見た目ではわかりません。

#### ○事務局

一時、不妊になるということも報道などで流れておりましたけれども、実際、今高校2年生3年生という年代がまだ子どもをつくるというのは先になりますので、本当にそうなのかどうなのかということは今の時点では、日本においては、まだ、検証がこれからだと思います。確かにそのようなお話しはいろいろなところで話されているという事実はありました。

○部会長

不妊に関して、外国のデータでは、そのようなことは無いとでていました。

○委員

接種率の6割、7割というのは高いでしょうか？

○事務局

確かに、乳幼児のBCGや麻しん、風疹ですと90%を超えています。それに比べると一般の方で大人になると受けない方もいますので、6割、7割というのは結構高いほうだと思います。せっかく国の助成事業で始めたのですが、このような状況になると戻るのには時間と接種者と保護者の理解が必要になってくると思われます。

○部会長

他に何か無いでしょうか。よろしいですか、それでは新型インフルの説明ですね。お願いします。

○事務局

「帯広市新型インフルエンザ対策行動計画見直し」について、ご報告させていただきます。資料3をご覧くださいと思います。

まず初めに、これまでの経緯ですが、平成24年5月に新型インフルエンザ等対策特別措置法の公布に基づきまして、平成25年6月に国において「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」が改正されております。本市におきましては平成21年9月に「帯広市新型インフルエンザ対策行動計画」を策定していますが、国や道と整合性のある対策が図られるよう、見直しを行うものです。

国の動向についてですが、新型インフルエンザ等対策特別措置法が本年4月13日に施行されております。その目的は、新型インフルエンザや全国的に、急速な、蔓延の恐れのある新感染症に対する対策の強化を図り、新型インフルエンザ等の発生時において国民の生命及び健康を保護し国民生活及び国民経済に及ぼす影響が最小とすることとなっております。

これまでと異なる点といたしましては、対策本部の設置の条例化をはじめ、緊急事態発生の際の措置としまして、外出の自粛・催し物の制限の要請や指示、特定事業者や住民を対象とした予防接種、医療提供体制の確保等が主な変更点です。

資料右側をご覧ください。

見直しにあたっての考え方ですが、基本方針といたしましては、「感染拡大を可能な限り抑制し、市民の生命及び健康を保護する」と、「市民生活・市民経済に及ぼす影響を最小と



する」ことが骨子となります。

行動計画には、5つの項目があります。

1 つめの、「実施体制」としまして、対策本部の設置と施策の推進」2 つめに、「情報収集・提供」としまして、新型インフルエンザ等の情報収集と、特定事業者及び市民への情報提供、3つめに、「予防蔓延防止」としまして、感染拡大防止対策の市民への周知や新型インフルエンザ等の蔓延に関する措置、4 つめに「予防接種」としまして、特定事業者や市民への予防接種の実施、5 つめに「社会経済機能維持」としまして、生活環境の保全や地域経済の安定があげられております。

今後の見直しのスケジュールですが、行動計画策定の進め方といたしましては、本部会におきまして審議を経ましてご意見をいただきながら関係機関との協議などを経て、計画素案をまとめてまいります。明年2月には本部会へ行動計画素案を説明させていただくと共に、厚生委員での審議を経てパブリックコメントを実施し、平成26年5月の厚生委員会での報告の後、成案としてまいりたいと考えております。報告は以上です。

○部会長

何かご意見、ご質問はないでしょうか。

○委員

ありません

○部会長

今年度ではなく、来年度ということですね。

○事務局

これから素案の策定作業に入らせていただきます。出来上がりは来年5月というように予定しています。国は6月に行動計画をつくりまして、北海道も10月末に作り上げてきております。これから一斉に市町村が作るようになっております。国の方からある程度モデルになるようなものが示されておまして、それを中心にしながらいろいろご意見を伺いながら作っていくという形を考えてございます。

○部会長

他に何かご意見はないでしょうか。よろしいですか。それでは最後に全体を通して何かございませんでしょうか？なければ事務局から。

○事務局

次回の健康づくり支援部会の日程ですが、年明け2月頃を予定しておりますが、日程につい

では、部会長と相談をいたしましてご案内したいと思います。

なお、来年度は、第六期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定年度のため、「高齢者支援部会」と合同での会議を 6 回ほど開催させていただく予定です。現計画策定時と同様、委員の皆様のご意見をお伺いしたいと思いますので、ご協力お願いします。なお、全体的なスケジュールなどにつきましては、次回 2 月の「健康づくり支援部会」におきまして、お伝えさせていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

○部会長

では、これで会議を終了したいと思います。ありがとうございました。